

3. SGH 研究開発実施概要(成果と課題)

3.1 平成 27 年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要(生徒数は申請時現在)

指定期間	ふりがな	とうきょうがくけいせいしゅうがくふぞくこくさいちゅうとうきょういっくがっこう					②所在都道府県	東京都
27～31	①学校名	東京学芸大学附属国際中等教育学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数						⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	中等教育学校後期課程(高等学校)を中心とし、一部については前期課程を含む全校生徒を対象とする
普通科	109	116	122	126	130	124	727	
⑥研究開発構想名	多文化共生社会の実現を支える組織力・対話力・実行力の育成							
⑦研究開発の概要	<p>「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」を大テーマとした課題研究を通して、多文化共生社会の実現を牽引し、現代社会および未来につながる課題解決に主体的に取り組むために必要なコンピテンシー、特に「組織力」「対話力」「実行力」を養い、それを活かしたアクションを起こせる生徒を育成する。</p> <p>①課題研究および各教科の授業、国際教養群の授業における探究的学習を通して、コンピテンシーの育成と伸長を促すための体系を整備し実践する。学習領域「国際教養」において、生徒の課題研究を現実的な課題に適う高次のレベルに引き上げるための構造的な改変を行う(SGHActによる学校外活動の単位認定・総合的学習の時間の体系化・課題研究を実践につなげる支援企業参加のコンペティションの実施等)。②課題研究の質の向上および課題研究と評価方法策定のための外部連携を強化し、生徒課題研究を中核としてネットワーク化する。③生徒のコンピテンシーを評価するための指標・規準の確立を含む評価方法について、連携大学・企業・国際的組織と共同した研究・開発体制をとる。</p>							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>現実の社会問題に即した焦点からアプローチする課題研究への取組によって、多様化複雑化を極める現代社会の課題に対し、その核心をつかんで組織的に対応できる能力を育成する。また、その研究のプロセス・成果を内部・外部の両者によって評価するシステムを構築し、グローバル・コンピテンシーを定義できる指標の提示を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>*現状の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の学習領域「国際教養」が開校当時から設定されており、課題発見-設定-研究というプロセスを学びながら探究的な学習を進めるスタイルを継続的に行っている。 ・プレゼンテーションやディスカッションといった発信・表現のスキルを使いながら教科学習を進める授業も多く、授業の多くにアクティブラーニングのスタイルが取り入れられている。 ・研究成果を外部に発信し、外部の活動に活かしている生徒もおり、外部からの評価も高い。一方また、社会課題や社会貢献への意識が高い生徒も多く、ボランティアツアーや途上国へのスタディツアーには生徒が自主的に参加している。 <p>*研究開発の仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究のテーマを概念化して提示することで、生徒の持つ多様な課題意識を焦点化し、現実的課題に結びつけ、机上の空論に終わらないアクションへと結びつける道筋ができる。 ・課題研究を通して、他者(学校内外の高校生・大学生・研究者・企業)と連携することで、課題解決に向かうための知識・能力・技術の組織化を図る方法、対話を通して解決の道筋を発見する方法を学び、多様な課題に柔軟に対応できる連合体を構成する能力を養える。また、第6学年次の研究をPre-SGUと位置づけることで、大学での研究への連続・接続が可能である。 ・課題研究の過程および成果を世に問い、評価を受けることで、研究の質の向上・現実性の保持が期待される。またグローバル・コンピテンシーを評価するための指標の設定、方法の確立に寄与できる。 <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる成果の公表と、課題研究に関連する情報その他の外国語による表示 						

	<ul style="list-style-type: none"> ・本校公開研究会での教員側・生徒側両者による公表 ・管理機関及び連携大学・企業との共同による成果発表会 ・生徒運営による国内外の参加者を招いてのシンポジウム・ワークショップの開催
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 地球規模の課題解決に付随するテーマとして「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」を主軸とし、それぞれに関わる具体的課題を生徒自身が設定・研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リスク」を主軸とした研究は、「リスク社会」に組織で立ち向かえる能力を中心的に育成する。多様なリスクを分析し、それに対応するための複合的「知」のチームをどのように構成するか、またそのチームでどのようにリスクに対応するかを生徒自身が考える課題研究を想定している。「葛藤と軋轢」を主軸とした研究のキーワードは「フォビア（嫌悪）」である。「フォビア」はなぜ生まれるのか、それを超えて他者と対話し、共通の課題に向かうにはどうしたらよいかということについて課題研究を通して分析・洞察し、合意形成と平和の実現を可能にする対話力に主眼をおいて育成する。「教育」を主軸とした研究は、生徒自身が教育を受けている立場で同世代・次世代の教育に関する課題を考える。身近なところにアプローチの入口があるため、スモールステップではあっても、研究の成果を実行すなわちアクションにつなげることを想定する。 <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期課程3年間を通じて総合的学習の時間（本校では「国際4～6」）を中心として課題研究を行う。4年次：「Personal Project」・5年次：「国際5-SGH 課題研究」・6年次：「国際6-SGH 課題研究」生徒は（SSH・SGH いずれかを選択した上で）個人あるいはチームでの課題研究テーマを三つの主軸のいずれかに関連するものとして設定する。いずれの研究においても最終成果は内部発表にとどまらず、外部評価を受けることを目標とする。研究成果の内、学校外活動については、学校外活動の単位認定制度を導入する（SGHAct の単位認定）。認定に際しては外部機関と連携する。 ・課題研究のための調査・研究の機会としての国内外のフィールドワーク・研修を実施する。 ・課題研究支援および課題研究成果発信の場として、また、外部講師を招いての研究支援の場として生徒をファシリテーターとしたグローバルカフェを開催する。 ・学校設定教科「国際」の6年次開設科目「国際A」「国際B」における講座「国際協力と社会貢献」「ファシリテーション実践」を開設し、課題研究を通して身に付けたスキルを発展させる。 ・大学との連携事業（東京外国語大学との連携）国際交流基金との連携、企業との連携を通して、課題研究の成果としての実践を行う。 ・検証・評価については、研究の質・成果の達成度・実践化の度合い、またそれらを通して見えるコンピテンシーの獲得・育成状況を観点化し、指標を設けて評価を行う。評価規準・方法は、校内外部機関もその検討・策定に携わることとする。さらに課題研究助成獲得および外部評価の場として、選抜コンペティション<ISS チャレンジ>を実施する。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際教養」を始めとした各授業での「ポスト・アクティブラーニング」の取組 ・英語および英語以外の外国語によるコミュニケーション能力の向上に関する取組 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外ワークキャンプ実施（現地校でのプレゼンテーション・ディスカッション含む） ・大学・高校との交流事業の推進 ・後期課程生徒主体の運営組織 SGH Student Team の結成
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は平成26年度より SSH 事業の指定を受けている。本校の国際教養は「理数探究」「人間理解」「国際理解」の三領域を中核としており、SSH 課題研究は「理数探究」を主軸として運営・実施される。一方 SGH は三つの領域を包括的にとらえ、課題研究は三つの概念によって再構成される。</p>

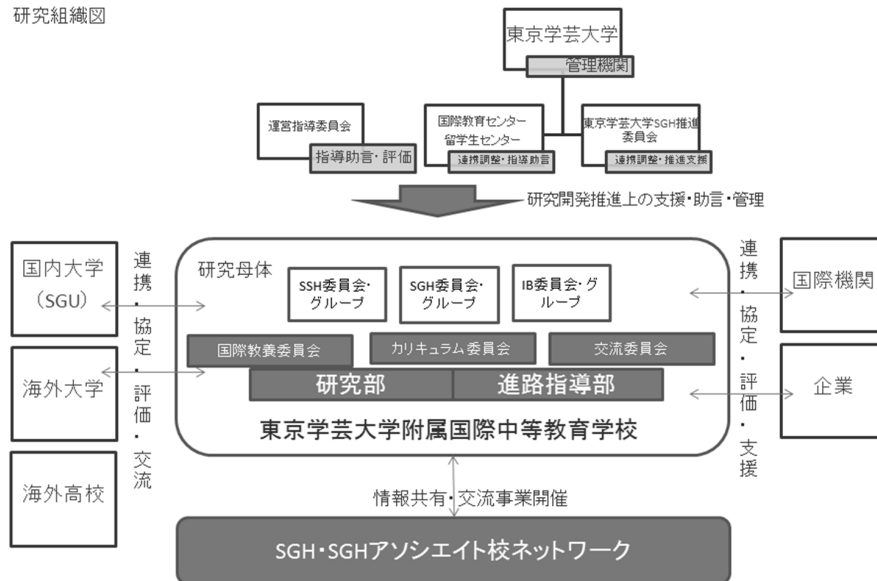
3.2 5カ年研究開発計画・評価計画(当初)

研究開発計画	評価計画
平成 27 年度 (第 1 年次)	
<p>①後期課程の「国際教養」領域（総合的学習の時間を含む）について、仮説Ⅰの課題達成に必要な事柄の見直しを行う。重点項目</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究を実施する。重点項目</p> <p>③仮説Ⅱの実施に必要な外部連携のネットワークを構築し、連携事業を一部開始する。重点項目</p> <p>④仮説Ⅲの実施の第1段階として、課題研究の成果についての評価を外部と連携して行う。</p> <p>⑤SGHActの単位認定制度のための検討を行う。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の体系に関する調査・データ収集と本校の課題との比較 ・生徒の課題研究テーマと主軸概念の関係についての校内アンケート調査 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究テーマについての外部連携機関の関心度調査 ・外部コンテストや研究発表会への参加
平成 28 年度 (第 2 年次)	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系整備の実施。具体的には、スキル育成の前期課程と、課題研究が継続的に高次化するよう後期課程の体系を検討・整備する。重点項目</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究を、外部連携を強化する形で実施する。重点項目</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法について共同開発を行う重点項目</p> <p>④ポスト・アクティブラーニングの教科学習における試行を行う。</p> <p>⑤SGHActの単位認定制度の運用方法と要領を定める。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの体系の整備状況についての検討・評価 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会および評価規準・方法策定会議（仮）による、研究開発進捗状況の確認。 ・第5回公開研究会における研究開発についての中間発表
平成 29 年度 (第 3 年次)	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系を構築する。必要に応じて、教育課程上の名称変更等を行う。</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内の学会等で発表する。</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法の検証を行う。またコンピテンシーについての評価規準・評価方法の共同開発を行う。重点項目</p> <p>④SGHActの単位認定制度を施行する。重点項目</p> <p>⑤研究助成のためのコンペティション実施（以後継続）。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの運用状況についての検討・評価 ・課題研究の評価についての校内アンケート実施 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 成果発表会開催
平成 30 年度 (第 4 年次)	
<p>①国際教養の体系化と課題研究の質的向上の関係性を構造化するための調査・検証を行う。</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内・海外の学会等で発表する。重点項目</p> <p>③外部と連携し、課題研究・コンピテンシーについての評価規準・評価方法の検証を行う。</p> <p>④ポスト・アクティブラーニングの継続的試行を通してコンピテンシー育成との関係性を検証する。重点項目</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の SGH 成果発表会を受けての振り返り <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学会発表についての外部の反応の分析とフィードバック ・評価規準・方法の外部提供と検証
平成 31 年度 (最終年次)	
<p>①国際教養の体系化完成。課題研究の質的向上とコンピテンシー育成との関係性を構造化する。重点項目</p> <p>②課題研究の成果の実践への移行の検証を行う。</p> <p>③グローバル・コンピテンシーの評価規準・評価方法を策定し、公開研究会等で発表・外部提供を行う。重点項目</p> <p>④Pre-SGU:課題研究について大学への継続がなされているかどうかの追跡調査を行う。</p>	<p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 成果発表会開催 ・国際教養の体系化されたカリキュラムの公表 ・コンピテンシーの評価規準・方法の外部関係機関への提案と評価依頼 ・学会におけるワークショップ開催

3.3 研究開発組織の概要

- 研究母体… 本校全職員及び管理機関連携部署（東京学芸大学 SGH 推進委員会・東京学芸大学国際教育センター・留学生センター）
 本事業は、本校職員全員が担当する。必要な情報については、教員会議および校内研究会がその共有機会として確保される。
- 実施組織… 研究開発実施計画…SGH 委員会・研究部・特別研究推進委員会
 ＊本事業の中核組織。年次計画と再検討・報告書作成を行う。
 研究開発実施…SGH 実施グループを核とした本校教員全員
 ＊具体的な運営・実施にあたる。
 カリキュラム検討…SGH 委員会・SSH 委員会・カリキュラム委員会・国際教養委員会

研究組織図



- 外部連携調整…SGH 委員会・SGH 海外交流アドバイザー・東京学芸大学 SGH・SSH 推進委員会・国際教育センター・留学生センター・（事務手続き）国際課
 高大連携調整…SGH 委員会・進路指導部・東京学芸大学国際教育センター・留学生センター
 管理機関との連絡調整…校長・副校長
 事務処理（経理処理を含む）…本校事務職員
 管理機関…本学（国立大学法人東京学芸大学）
 ＊本事業における指導・支援を行う。また文部科学省との連絡を行う。
 連携・協定・評価・交流・支援…本学・他大学・国際機関・企業・国内外高校等
 ＊以下連携・協力体制を構築している大学・組織・企業
 ・東京外国語大学・フィリピン教育大学・香港大学・香港中文大学・香港科学技術大学・University College London・ミシガン州立大学・JICA 東京・日本マイクロソフト・チームラボ株式会社・日本政策金融公庫
- 運営指導委員会…石川 一喜（拓殖大学 准教授）・渋谷 真樹（奈良教育大学 教授）
 半田 淳子（国際基督教大学 教授）・古屋 力（東洋学園大学教授）
 森上 展安（森上教育研究所 代表取締役）・トロイ・ハモンド（米国ボストン 現地校教諭）

3.4 平成30年度(指定4年次)の実施概要(成果と課題) 付:資料 平成30年度事業一覧

<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を継続的・体系的に実施する体制を整えた。 ・課題研究論文の評価について標準化の取り組みを行い、5年生・6年生全員分の論文を同じグループで数値評価した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を支える仕組み(各教科の学習との連動を含む)を体系的・計画的に整える。 ・資質・能力の評価についてその評価方法・評価基準の策定を行い、外部へ発表・共有する。
--

3.4.1 5か年計画における直近3年間の実施状況と平成31年度の予定

<★は2年次で実施できた項目・○は3年次で実施できた項目・◎は4年次で実施できた項目・△は着手しているが未完の項目>

平成29年度(第3年次)	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系を構築する。必要に応じて、教育課程上の名称変更等を行う。○</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内の学会等で発表する。○</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価基準・評価方法の検証を行う。またコンピテンシーについての評価基準・評価方法の共同開発を行う。重点項目★</p> <p>④SGHActの単位認定制度を施行する。重点項目△</p> <p>⑤研究助成のためのコンペティション実施(以後継続)○。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの運用状況についての検討・評価 ○ ・課題研究の評価についての標準化実施◎ <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 成果発表会開催★
平成30年度(第4年次)※一部改訂	
<p>①国際教養の体系化と課題研究の質的向上の関係性を構造化するための調査・検証を行う。◎</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内・海外の学会等で発表する。重点項目◎</p> <p>③外部と連携し、課題研究・コンピテンシーについての評価基準・評価方法の検証を行う。△</p> <p>④ポスト・アクティブラーニング(主体的に教室の外と繋がる学び)の継続的試行を通してコンピテンシー育成との関係性を検証する。重点項目</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までのSGH 課題研究を受けての振り返り◎ <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学会発表等についての外部の反応の分析とフィードバック△ ・評価基準・方法の外部提供と検証△
平成31年度(最終年次)※一部改訂	
<p>①国際教養の体系化完成。課題研究の質的向上とコンピテンシー育成との関係性を構造化する。重点項目</p> <p>②課題研究の成果を踏まえ、研究成果が実践へどのように移行されるかの検証を行う。</p> <p>③グローバル・コンピテンシーの評価基準・評価方法を策定し、公開研究会等で発表・外部提供を行う。重点項目</p> <p>④Pre-SGU: 課題研究について大学への継続がなされているかどうかの追跡調査を行う。</p>	<p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年間の研究開発の経過と実績を報告するSGH 成果発表会開催 ・国際教養の体系化されたカリキュラムの公表 ・コンピテンシーの評価基準・方法の外部関係機関への提案と評価依頼 ・学会におけるワークショップ開催

平成30年(2018年)度 SGH事業一覧 2019年3月現在

2018年度実施期間	校内研究事業・運営指導委員会	対応仮説他	
4月5日	4月校内研究会① SGH・SSH今年度の事業計画	I・III	
4月23日	4月校内研究会② 学びの地図作成について(兼公開研究会準備)	I・III	
6月12日	6月校内研究会 公開研究会事前打ち合わせ(SGH情報交換会準備含む)	III	
6月18日	第6回公開研究会・SGH情報交換会 第1回運営指導委員会	I・II・III	
10月29日	国際教養委員会主催 課題研究論文評価標準化検討会(モデレーション)	I・III	
2月16日	ISSチャレンジ最終審査会 兼 第2回 運営指導委員会	I・II・III	
2月13日	2月教員会議 新5年・6年向け 次年度課題研究予定報告	I・III	
2018年度実施期間	課題研究・ISSチャレンジ関係事業内容	対応仮説他	
2018年年度初～	課題研究実施		
4月10日	ISSチャレンジオリエンテーション2年生～6年生対象 於 第1体育館 ※SSHオリエンテーションも同時開催 ※以下各学年オリエンテーション等実施日	I	
4月16日・23日	5年(国際5)・6年(国際6) 課題研究I・IIオリエンテーション		
4月23日	4年(Personal Project) スーパーバイザーミーティング		
4月25日	ISSチャレンジ研究計画書オリエンテーション		
5月15～16日・18日	ISSチャレンジ研究計画書書き方相談会(5年生・6年生が講師)		
5月28日	ISSチャレンジ研究計画書縮切		
5月30日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング①(メンター、研究倫理申請について・年間計画について・SGHフィールドノートの配布)		
6月28日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング②(「研究計画書」の評価・コメントのフィードバック・全国高校生フォーラム、外部評価会について・夏休みをはさんで9月までの動きを説明)		
6月19日	ISSチャレンジ研究計画書査読縮切<教員>		I・III
7月13日	ISSチャレンジ外部評価会①		
7月14日	ISSチャレンジ外部評価会②		
9月4日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング③(研究ポスターの作成について・研究倫理について・外部評価会について)	I	
9月15日・9月16日	本校スクールフェスティバルにてポスター展示・ワークショップ開催(2チーム SDGs・異文化理解アプローチ法について)	I・III	
9月29日	ISSチャレンジ外部評価会③	I・II・III	
10月3日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング④(研究経過報告書の書き方について・海外FWへの応募について・その他 岡山への国内研修・グローバルカフェ)		
10月21日	ISSチャレンジ研究経過報告書縮切・課題研究研究経過報告書縮切・6年課題研究論文縮切 ISSチャレンジ追加申請縮切	I	
11月20日	ISSチャレンジ研究経過報告書査読縮切<教員>	I・III	
11月27日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑤(経過報告書のフィードバック・論文の書き方について)		
1月7日	ISSチャレンジ最終研究論文提出縮切	I	
1月8日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング⑥(研究ポスターの作成について・フィールドノートの提出について)		
1月23日	研究成果ポスター 提出縮切(全グループ)	I・III	
1月28日	ISSチャレンジ最終研究論文査読縮切<教員>		
1月28日～31日	ファイナリスト・セミファイナリスト選考<教員>	I・III	
2月2日	ファイナリスト・セミファイナリスト発表	I	
	ファイナリスト:4グループ セミファイナリスト:14グループ		
2月1日	ISSチャレンジ研究代表者への評価フィードバック		
2月15日	生徒研究成果発表会 前日準備・リハーサル 研究代表者ミーティング		
2月16日	ISSチャレンジ課題研究成果発表会 兼 最終審査会 中高一貫教育研究大会 ポスターセッション		
2018年度実施期間	国内研修・国内交流・研究発表・ディスカッション等	対応仮説他	
6月16日	長野県上田高等学校主催「北陸新幹線サミット」(於 長野県上田高等学校)	I・II	
7月30日	SGH校 関西大学高等部との交流(於 東京学芸大学附属国際中等教育学校)	I・II	
8月20日・21日	Global Discussion参加(於 名古屋大学教育学部附属高等学校)	I・II	
10月31日～11月1日	世界津波の日 高校生サミット in 和歌山 参加	I・II	
11月8日	高校生国際ESDシンポジウム@東京・全国SGH校生徒徒成果発表会(於 筑波大学東京キャンパス)	I・II	
12月15日	全国SGH高校生フォーラム(於 東京国際フォーラム)	I・II・III	
12月23日	第3回関東・甲信越静地区スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会(於 立教大学)	I・II・III	
1月29～30日	岡山操山高等学校主催平成30年度未来航路課題研究発表会(於 岡山操山高等学校・岡山市民会館)	I・II・III	
1月27日	第3回東京学芸大学主催SSH/SGH課題研究成果発表会(於 東京学芸大学)	I・II・III	
3月22日～24日	SGH甲子園・関西研修	I・II・III	

2018年度実施期間	海外研修・海外交流(事前学習含む)	対応仮説他
7月27日～8月6日	UCL・Japan Youth Challenge 2018 * 事前学習 5月18日～7月10日まで4回	I・II
10月11日～31日	香港研修2018・フィリピン研修2018参加生徒募集	I・II
11月1日～12日	香港研修2018・フィリピン研修2018参加生徒選抜審査	
11月21日	香港研修2018参加者決定	
11月21日	フィリピン研修2018参加者決定	I・II
2月17日～21日	フィリピン研修2018実施 * 事前学習 11月26日～2019年2月14日まで9回	I・II
3月10日～13日	香港研修2018実施 * 事前学習 2018年12月17日～2019年2月25日まで6回	I・II
2018年度実施期間	Global Café	対応仮説他
5月22日	第1回 フィリピン研修報告会(生徒主催型)	I
6月13日	第2回 香港研修報告会(生徒主催型)	I
6月29日	第3回 「ベトナム高校生交流会」(学校主催型・SGH委員会交流委員会共催)	I・II
10月5日	第4回 「UCL研修報告会」(生徒主催型)	I
10月17日	第5回 MSU研修報告会(生徒主催型)	I・II
10月23日	第6回 留学体験発表会	I
11月21日	第7回 台湾義大国際高級中学交流(学校主催型・SGH委員会交流委員会共済)	I
2018年度実施期間	課題研究支援セミナー	対応仮説他
5月28日	国境なき医師団 財務担当 野坂 真吾 様 「医師団の役割と南スーダンの今」 パークレイズ銀行から医師団に転職した経緯と現在の仕事について	I・II
6月18日	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 小川 雄一先生 「核融合の最前線」 ミシガン州立大学研修の事前学習と併せ、原発とエネルギー問題の最新の知見への取り組み	I・II
12月3日	金子 佳様 「広告 CM ブランディングーsocial goodnessのトレンドとは」 博報堂プランナーとして手掛けたCMの成り立ちと社会への影響について	I・II

3.5 管理機関の役割と連携

東京学芸大学の役割と連携

管理機関である東京学芸大学は申請書年度から継続的に本校と連携を行い、事業進捗に関する助言や経費支援などを行っている。新たな連携事業としては東京学芸大学が協定を結んだ、米国ミシガン州立大学との共同事業がある。今夏は「Nuclear Science」をテーマとしてミシガン州の高校生8名と本校の高校生8名が米国と日本で計3週間の合同研修を行った。

1. SGH 推進委員会の設置と支援

本校および附属高等学校の SGH 事業を支援するために東京学芸大学内に設置された学長をトップとする機関である。一昨年度から年に2回程度開催されており、今年度の主な内容は以下の通りである。

第1回：今年度全体計画の確認・大学としての支援体制の確認・年度末の課題研究成果発表会についての打ち合わせ

第2回：2018年度の報告（2018年12月現在）

- ・合同成果発表会の開催（主催東京学芸大学）

2. 外部評価会への教員派遣

東京学芸大学の教員派遣制度を活用して今年度はISSチャレンジ「外部評価会」の評価者として学長をはじめとした大学教員が支援にあたった。

- ・2018年7月・9月 ISSチャレンジ外部評価会（校内開催）
- ・2018年7月 大学フィールドワーク（大学開催）
- ・2019年1月 東京学芸大学主催 SSH/SGH 課題研究成果発表会 審査員（8名の教授陣）
総務部附属学校課の運営
学長・副学長・附属学校運営参事の出席

3. 東京学芸大学主催 SSH/SGH 課題研究成果発表会

実施日時： 2019年（平成31年）1月27日（日） 10:00～17:00

実施場所： 東京学芸大学 芸術館ホールおよび展示室

主催： 国立大学法人 東京学芸大学

実施組織… 本校全職員及び管理機関連携部署（東京学芸大学 SGH 推進委員会・東京学芸大学国際教育センター・留学生センター）

本事業は、本校職員全員が担当する。必要な情報については、教員会議および校内研究会がその共有機会として確保される。

- ・研究開発実施計画…SGH 委員会・SSH 委員会・特別研究推進委員会

＊本事業の中核組織。

- ・当日までの実質運営…SGH 実施グループを核とした本校教員全員

＊具体的な運営・実施にあたる。

4. その他の支援・経費支援

その他の支援

- ・ミシガン州立大学との連携

2018年7月・8月に合同研修を実施（米国側高校生8名・本校高校生8名）

※研修の詳細は本報告書別項に後掲。

経費支援状況（主なもの）

- ・国内外の教員引率経費の一部・都内引率経費を管理機関が支援。
- ・旅費を中心とした経費の消費税相当額を管理機関が支援。
- ・海外交流アドバイザー雇用経費の一部を管理機関が支援。